

平成 29 年 1 月 23 日

## 事故情報の分析の試行について

(氏名) 西田 佳史

### 1. 目的

事故情報データベースに登録されている事故情報に関して、テキストマイニング技術等を活用した分析を行うことにより、事故対策（事故に起因する傷害の予防）を行うべき対象の明確化や、事故対策の効果評価に対してデータを活用する具体的な方法の検討、また、事故対策や効果評価に活用する上での収集データの質に関する課題の明確化を行う。

### 2. 分析する事故情報の分野

事故対策や傷害予防で効果的な方法の一つは、関連する製品を特定し、その改善策を開発することである。近年、子どもや高齢者の製品に関連した事故が多発しており、データを活用した製品改善の方法論の開発が求められていることから、こうした生活機能変化者（心身機能や認知機能が変化しやすい子どもや高齢者）や製品関連事故を今回の分析の対象とする。

### 3. 分析において活用する技術

分析においては、テキストマイニング技術を活用する。事故状況が記載された自由記述文を分析することで、製品が使用されている環境の実態、製品に対する行動の実態、重症事故と軽症事故の比較分析、事故状況の経年変化などを把握することができ、製品改善や啓発を行う上でのヒントが得られる。テキストマイニング技術は、事故状況が記載された自由記述文を分析可能にするものであり、こうした試みに有用と考えられる。

### 4. 期待される成果

テキストマイニング技術の技術を活用して事故状況を分析することにより、単純な集計では困難であった、製品の使用実態の把握、事故対策の効果評価の方法論の開発、事故対策や効果評価に活用する上での収集データの質の課題の明確化が可能になる。